



新・長瀬高浜だより

第3号

2023年10月13日発行

公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室では、遺跡の発掘調査や出土品の整理作業など、埋蔵文化財の調査を行っています。令和4年度から一般国道9号(北条道路)改築に伴う長瀬高浜遺跡の発掘調査を開始しました。今号では、令和5年度のこれまでの調査成果について紹介します。



調査地北東側から大山を望む(令和5年7月12日撮影)

きぬちゃん注目の出土品!!

宝石のようにキラキラ光ってとてもきれい!



畠跡を調査中に小さな勾玉が顔を出しているのを発見しました。勾玉は長さ1.2cm、幅8mm、厚さ4mmの小さなものです。光沢のある薄い緑色でヒスイ製と見られます。おそらく、本来はもっと深い古墳時代や弥生時代の地層中にあったものが畠の耕作によって巻き上げられたため、新しい時代の地層で見つかったのでしょう。今後の調査にも期待が膨らみます。



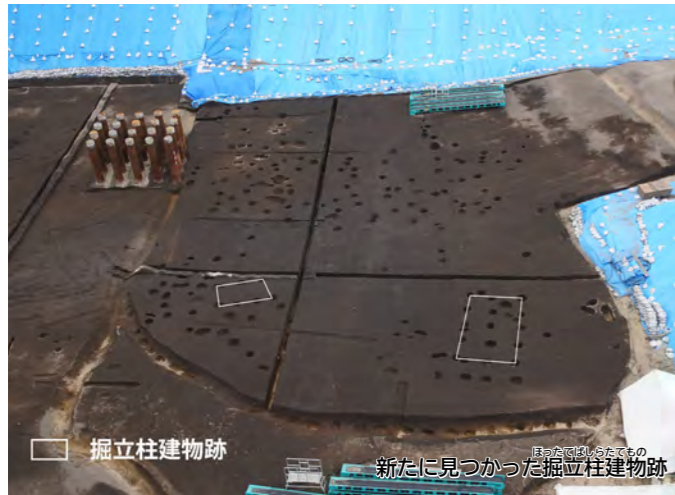
出土したときのようす



出土した勾玉

今後の調査について

現在、畠跡の下層にある奈良・平安時代の可能性がある建物跡や、古墳時代の竪穴建物跡や古墳を調査中です。これらの調査成果は次号でご紹介する予定です。



掘立柱建物跡

新たに見つかった掘立柱建物跡



新たに見つかった古墳

最新情報コーナー

発掘調査の最新情報はホームページやFacebookでチェック! YouTube公式チャンネルでは、遺跡の解説動画や発掘現場リポートを配信中です!

動画続々UP!!

長瀬高浜だより THE MOVIE Vol. 5 → 1・3区調査始動の様子



オススメ動画

▼前編・後編の2本立てで、長瀬高浜遺跡をわかりやすく解説!



▼畠跡を現地説明会風に解説!



YouTube



ホームページ



Facebook



長瀬高浜遺跡とは? ~遺跡の概要と令和の発掘調査~

長瀬高浜遺跡は、鳥取県東伯郡湯梨浜町に所在する砂丘遺跡です。1974年の遺跡確認以降、下水道処理場建設や一般国道9号改築事業などに伴って行われた発掘調査により、集落跡、古墳などの墳墓、畠跡など、多くの遺構が発見されました。国の重要文化財に指定された埴輪群や、金属製品、大量の土器など遺物も豊富で、鳥取県を代表する遺跡の一つです。

前回の調査から約四半世紀が経過した現在、湯梨浜町はわい長瀬から東伯郡琴浦町槻下までの区間で建設工事が進められている北条道路の工事範囲に遺跡の一部が含まれているため、令和4年度から3カ年の計画で、はわいインターチェンジ付近の約8,500㎡を発掘調査することになりました。



発行機関

公益財団法人 鳥取県教育文化財団 調査室

〒682-0704 東伯郡湯梨浜町南谷 528-1
TEL: 0858-35-5335 FAX: 0858-35-5336
HP: <http://kyo-bun.sakura.ne.jp/chosasitsu.html>



令和5年度 長瀬高浜遺跡1・3区の調査成果

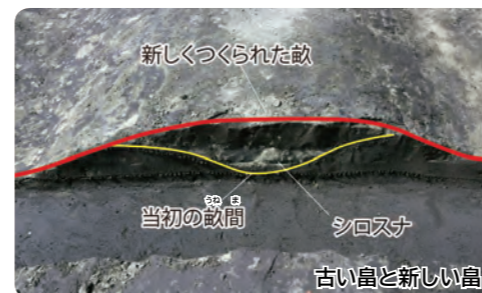
鎌倉時代～室町時代の広大な畠跡

長瀬高浜遺跡1・3区は、遺跡が広がる砂丘の北西部に位置し、現在の地面の標高は9m前後にあります。遺跡は厚いところで約4m堆積したシロスナ層の下、クロスナ層（黒色をした砂層）から見つかりました。このクロスナは砂丘の発達が一止まり、植物が繁茂することで形成された地層で、当時は草原のような環境だったと考えられます。

シロスナを除去して最初に見つかったのは、鎌倉時代～室町時代の畠跡です。過去の調査と合わせると約6,500㎡の範囲で見つかり、県内で見つかった中世の畠跡としては博労町遺跡（米子市）と並んで最大規模となりました。令和6年度は3区の東側を調査するため、畠の範囲はさらに広がると考えられます。



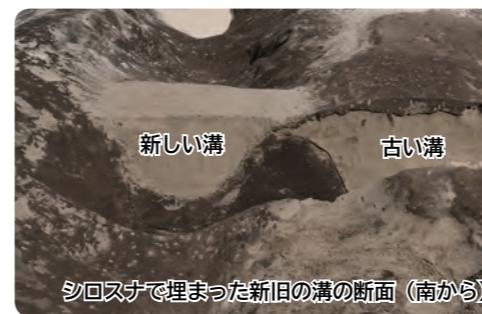
シロスナの下から見えてきたクロスナ



新しくつくられた畝
当初の畝間 シロスナ
古い畠と新しい畠



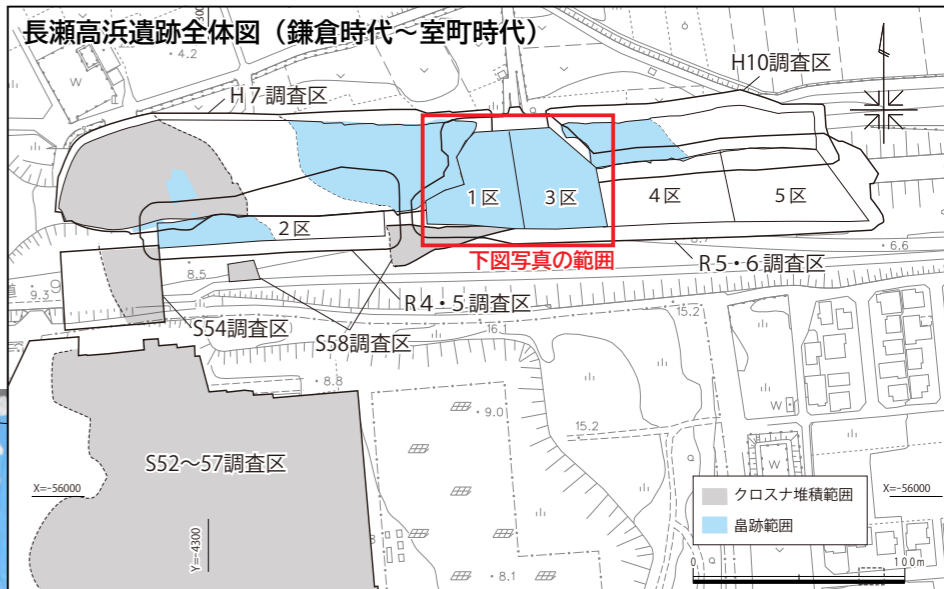
畝間がシロスナで埋まり縞模様に見える畠跡



新しい溝 古い溝
シロスナで埋まった新旧の溝の断面（南から）

【飛砂との戦い】

1区側では、古い畠と新しい畠の間にシロスナが薄く堆積している様子が確認できました。また、調査区中央の深い区画溝もシロスナで完全に埋まった後に新しい溝が掘られたことがわかります。畠が砂で埋もれても作り直して耕作を続けようとした「飛砂との戦い」がうかがえます。



【調査の概要】

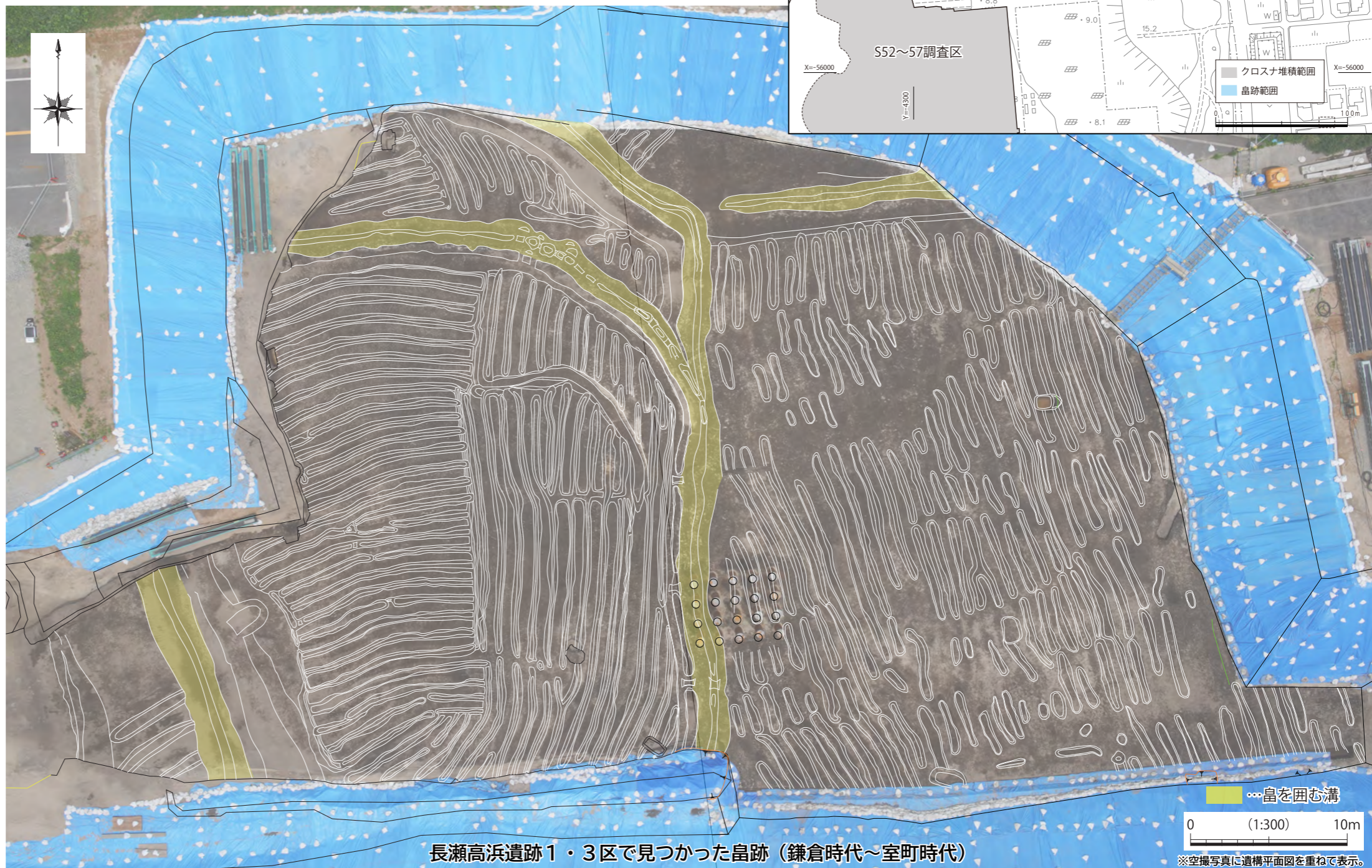
調査地点：長瀬高浜遺跡1・3区
 調査期間：令和5年5月29日～令和5年12月初旬（予定）
 調査面積：3,093㎡（1区：1,373㎡、3区：1,720㎡）
 主な遺構：中世（鎌倉時代～室町時代）の畠跡など
 主な遺物：中世の磁器・陶器
 古墳～平安時代の土師器・須恵器
 鉄器、石器、勾玉、銅鏃など
 ※主な遺構・遺物は現時点での状況。



1区側（北西）から見た畠跡

【鎌倉時代～室町時代の畠跡】

調査区全面で見つかった畠跡は、異なる方向の畝が溝や畦で囲まれていました。耕作土の厚さは約30cmあり、畝を作り変えながら、鎌倉時代初頭から室町時代にかけて繰り返し耕作されていたことがわかりました。この畠は室町時代以降、厚いシロスナに埋もれてしまいます。今後は耕作土の分析などを行い、どんな作物が作られていたのか等を明らかにしていきます。



長瀬高浜遺跡1・3区で見つかった畠跡（鎌倉時代～室町時代）

※空撮写真に遺構平面図を重ねて表示。